

プロローグ

危機意識を忘れずに災害に備えましょう

はじめに

平成23年（2011年）3月11日に発生しました東日本大震災から4年が経過しました。

私たちは、この大震災から自然災害の恐ろしさを改めて思い知らされるとともに、防災に対する多くの教訓と課題を学びました。

また、近年は、日本各地で、毎年のように台風や集中豪雨による土砂災害や地震・噴火など、さまざまな自然災害が発生し、尊い人命や財産等が失われています。

このような状況を踏まえ、本町では、町の防災指針である『地域防災計画』の大幅な改訂を行いました。

町民の皆様が安心して暮らせる災害に強い安全なまちづくりに向けて、防災資機材や備蓄食料、飲料水の確保、確実な情報伝達体制の確立、防災行政無線の整備・運用など、災害対策を重要課題と位置付けて、「防災」「減災」に努めて参りたいと考えています。

しかしながら、大規模災害の初期救助においては、行政の手が十分に行き届かないため、町民の皆様お一人おひと

りが日頃から防災への関心を高められ、「自分の命は自分で守る」という『自助』の備えや、地域の方々との関わりを深めながら、お互いに助け合う『共助』の取り組みが大変重要であります。

この『保存版 防災総合ガイドブック』は、平常時から備えに関して是非知っていただきたい内容をわかりやすくまとめたものです。

身近なところに備えていただき、ご家庭での話し合いや防災への備え、地域における防災のあり方等について話し合いをされる際にご活用いただければ幸いに存じます。

平成27年3月



桂川町長
井上 利一

もくじ

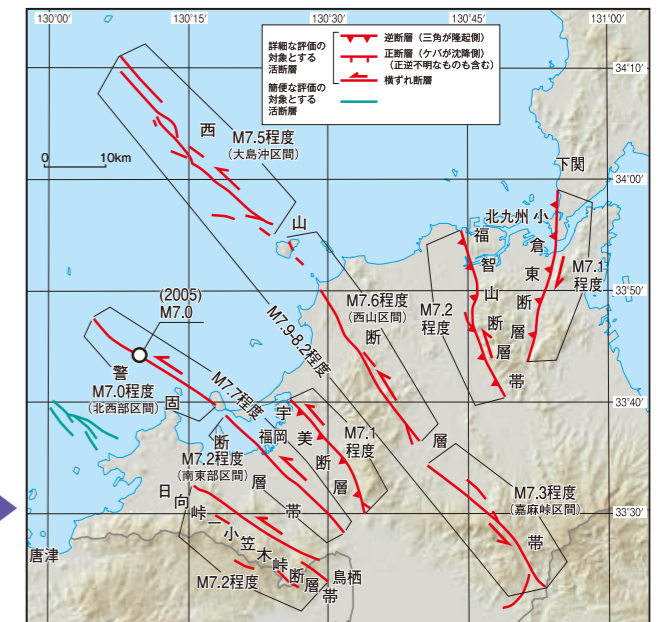
プロローグ	
危機意識を忘れずに災害に備えましょう	P1
地震対策	
地震発生! そのときどうする?	P2
大きな揺れを感じたとき	P4
屋内にいたら/屋外にいたら	
大きな揺れに備えて	P6
家の中の安全対策/家の周囲の安全対策	
風水害対策	
強い雨風に警戒しましょう	P10
風水害に備えましょう	P11
集中豪雨やゲリラ豪雨から身を守りましょう	P12
風水害から命を守る!	
「危険判断能力」を高めましょう	P14
土砂災害から身を守りましょう	P16
竜巻から身を守りましょう	P18
防災メール・まもるくん	P19

火災対策	
火災による被害をなくしましょう	P20
危険を感じたらすぐ避難しましょう	P22
火災に対する備えをしておきましょう	P23
災害時の避難	
家族との連絡方法などを決めておきましょう	P24
災害時の避難のポイント	P26
避難所生活での心得	P28
地域防災	
地域ぐるみで支え合いましょう	P30
桂川町の防災に関する取り組み	P32
要配慮者を支援しましょう	P34
応急手当て	
いざというときの応急手当て	P36
非常持出品	
準備しておきたい非常持出品は?	P38
ハザードマップ	
ハザードマップの解説	P40

福岡県下にも活断層が存在します

1995（平成7）年に発生した阪神・淡路大震災、2011（平成23）年では東日本大震災では大きな被害をもたらしました。福岡県内にもM6.8以上の地震を引き起こす可能性のある活断層が確認されています。このうち桂川町を走向している西山断層帯（大島沖区間、西山區間、嘉麻峠区間）が判明しており、嘉麻峠区間が1つの区間として活動した場合、M7.3程度の地震が発生する可能性があり、嘉麻峠－小笠原断層に沿って左横ずれを主体として3m程度のずれを生じる可能性があると言われています。

活断層の特性(九州北部)



九州北部の活断層の特性と想定される地震の規模

出典/「九州地域の活断層の長期評価(第一版)概要」(平成25年2月 地震調査研究推進本部 事務局)

あの日のあの時を忘れない

台風や豪雨の到来は予測できるからと安易に考えてはいけません。台風、梅雨時期の大雨、突然の集中豪雨と私たちの日常生活にこうした悪天候が襲いかかると、人命を含めて深刻な被害を引き起こします。桂川町では過去にあった風水害で記憶に新しい2012（平成24）年7月11日九州北部豪雨では大きな被害が発生しました。私たちは、常に風水害・土砂災害の危険にさらされています。家族の安全と財産を守るために、日頃からの備えが大切です。

桂川町の被害を及ぼした主な風水害

発生時期	災害要因	被害状況
平成15年7月	集中豪雨	住宅関係35戸：一部損壊5戸、土砂流入5戸、床上浸水2戸、床下浸水21戸、非住家2箇所（神社） 土木関係44箇所：道路損壊18箇所、水路9箇所、がけ崩れ等17箇所
平成21年7月	集中豪雨	住宅関係11戸：全壊1戸、一部損壊2戸、床上浸水1戸、床下浸水7戸 土木関係48箇所：道路損壊1箇所、道路冠水22箇所、がけ崩れ25箇所
平成22年7月	集中豪雨	住宅関係1戸：全壊1戸 土木関係10箇所：道路陥没2箇所、がけ崩れ3箇所、道路冠水5箇所
平成24年7月	集中豪雨	住宅関係12戸：一部損壊1戸、床下浸水11戸 土木関係153箇所：護岸ひび割れ1箇所、河川溢水3箇所、土砂崩れ144箇所、ブロック塀倒壊5箇所